

### ・ジカ熱の流行が拡大

中南米でジカ熱の流行が拡大しています。2月中旬までに流行が確認されている国と地域は28にのぼっています(WHO 2016-2/19)。とくにブラジルでの患者発生が多く、2015年からの累積患者数は約150万人に達しました。またブラジルでは小頭症の新生児が2015年11月以来、5000人以上確認されており、ジカ熱感染との関連が強く疑われています。また、流行地域ではギランバレー症候群という神経疾患も増加しており、ジカ熱による合併症の可能性があります。

こうした事態を憂慮して、WHOは2月1日にジカ熱の流行が公衆衛生上の緊急事態であるとの宣言を発表しました(WHO 2016-2/1)。また、日本の厚生労働省は2月にジカ熱を感染症法の四類感染症に指定し、医療機関で診断された患者は直ちに保健所に届け出る扱いにしました。

ジカ熱は蚊に媒介される感染症であり、流行地域では蚊に刺されない注意をすることが大切です。発病しても軽度の発熱や発疹が出る程度で回復しますが、妊娠中に感染すると胎児に小頭症をおこす可能性があります。このため、妊娠中の女性は出来るだけ流行地域に渡航しないようにしましょう。流行地域は下記の厚労省のホームページをご参照ください。

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000113142.html>

なお、ジカ熱のウイルスは感染した男性の精液にも存在し、性行為で女性に感染させる可能性があります。米国ではこうした経路で感染した女性が14人確認されました(米国CDC 2016-2/24)。このため、流行地域から帰国した男性は、症状の有無にかかわらず、帰国後1カ月は妊娠中の女性との性行為の際にコンドームを着用することが推奨されています。

### ・北半球での季節性インフルエンザの流行状況

北半球の国々では季節性インフルエンザの流行がピークを迎えています(WHO 2016-2/22)。ウイルスの種類はA(H1N1)型が主に流行していますが、B型ウイルスの検出も増えてきました。今季は世界的に流行の始まりが遅かったため、3月に入っても流行が続くものとみられています。

### ・中国での鳥インフルエンザの流行状況

中国では毎年冬の時期にH7N9型の鳥インフルエンザの流行が発生しています。今冬は2015年12月末～2016年1月末に28人の患者が確認され、うち5人が死亡しました(WHO 2016-2/10)。地域別では浙江省(13人)、江蘇省(5人)、広東省(4人)など南部の沿岸地帯が多くなっています。患者の約90%は発病前に生きたニワトリとの接触が確認されています。流行地域では、生きたニワトリが販売されている市場などに立ち入らないようにしましょう。

### ・東南アジアのデング熱流行状況

シンガポールでは今年になりデング熱の患者数が増加しています。1月末の1週間で630人の患者が確認されました(WHO 西太平洋 2016-2/9)。マレーシアでも昨年より患者数が増えている模様です。今年は東南アジアでのデング熱流行に注意が必要です。

#### ・アフリカ南部のアンゴラで黄熱が流行

アンゴラでは首都ルアンダを中心に 2015 年 12 月中旬から黄熱の流行が発生しています(WHO 2016-2/12)。患者数は 2 月中旬までに 300 人にのぼっており、このうち 75 人が死亡しました(米国 CDC 2016-2/22)。アフリカでは黄熱の流行がジャングルなどで頻繁におきていますが、今回のように都市部で流行が拡大するのは久しぶりのことです。なお、アンゴラでは入国者全員に黄熱ワクチンの接種を要求しています。

#### ・中南米の蚊媒介感染症

中南米ではジカ熱以外にも蚊に媒介される感染症が流行しています。今年にはブラジルでデング熱の患者が増加しており、1 月上旬だけで 7 万人の患者が発生しました(ProMED 2016-2/17)。チクングニア熱も 2014 年から中南米各地で流行がみられていますが、2015 年は全体で 68 万人の患者が確認されました。この中でもコロンビアでは患者数が 38 万人と多くなっています(米州保健機関 2016-2/19)。これらの感染症を媒介するネッタイシマカは昼間に吸血する習性があり、中南米に滞在する際には昼間、蚊に刺されない対策をこころがけましょう。